

補聴器公的補助取り組み 向日支部・北林重男

4月の向日市長選挙には地芳協役員の木村さんへの支援ありがとうございました。

向日市3月議会へ加齢性難聴者補聴器補助の請願。老人クラブ連合会など20の団体に賛同申し入れました。



向日市3月議会へ加齢性難聴者補聴器補助の請願。老人クラブ連合会など20の団体に賛同申し入れました。

6月23日議会で圧倒的多数で可決。組合員が積極的に多くの団体個人に足を運んで賛同要請を行いました。



サークル活動 子ども食堂 長岡京支部・中川美智子

支部は、増勢にはならなかったがマイナスにもならなかった。去年はものすごく増えましたが、今年は、バスツアーでは45人が

補聴器助成 各地で採択 年金者組合が奮闘

参加。支部大会懇親会には64人が参加。新しい人の参加が目立ちました。

子ども食堂を立ち上げました。支部のボランティア支援やカンパも訴えて、月2回開催してま



コロナ禍積極的に集まる 城陽支部・滝沢京一

コロナ禍でも、サークル活動積極的に進め例会を続けて加入者が増えた。ドリームハンドサークルは手作りの作品づくりで22人が加入。歩こう会も京都トレイルで足を使って登山を、新加入がありました。サークル活動を積極的に進めることで仲間づくりに貢献しています。

居場所見つける取り組み 山科支部・高畑照世

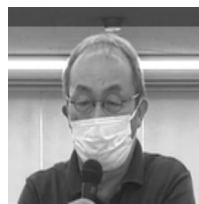
女性部アンケートは前回の1.5倍になる83人の声が集まった。物価高で苦勞されている。服は買えない。映画に行けない。一人



の相談者もないという人は一人だけだった。つながり

あることが大事。ジェンダーの問題、母親大会や近畿の集会でも学んだ。しかし、なぜ女性ばかりが学習する？ 男性も考えてほしい。

補聴器助成の取り組み 福知山支部・金沢徹



昨年12月、補聴器購入公的助成制度を求めめる請願が全会一致で採択

されました。「加齢性難聴者」を「中等以上の難聴者」に改めてのりベンジ請願です。教訓は、難聴者全般への補助であれば、高齢者医療保険制度、介護保険への影響は大です。市独自の補助制度求めて取り組んでいきま

す。マイナカード不祥事が相次いでいる。保険証廃止の中止運動を府全体で進めてほしい。

前川町政の発展へ 大山崎支部・後藤隆司



自民公明など反前川勢力は、3月議会で18歳まで子ども医療費無料化、公民館建てえを含む

予算を否決しました。さらに理不尽にも「辞職勧告決議」を2回も突きつけました。年金者組合は民主町政の会に結集し、粘り強い住民運動ではね返しています。前川町政を支え公約実現を進めて行く決意です。

新しい府本部の役員一覧

- 委員長 山本和夫(再)
- 副委員長 藤原克東(再)
- 副委員長 楠 晤(再)
- 副委員長 栗倉恵子(再)
- 副委員長 藤井伸生(新)
- 副委員長 井坂博文(新)
- 書記長 森脇芳男(再)
- 書記次長 大橋透(再)
- 書記次長 渡守伸次(再)
- 書記次長 西田美津子(再)
- 会計 古谷茂(新)
- 執行委員 高橋つや子(新)





南支部の組合事務所

支部創設は1989年(平成元年)7月30日。1年間の準備期間を経て、京都下・南支部が結成され(当時の組合員は下京30人・南60人)、その1年後、120人で、左京に次ぐ支部に成長。10周年目には300人で府内1番の支部になります。組合員が増えると、下京区も南区とともに地域の実情に合った活動を強めるため2003年15周年の節目の定期大会で最高の組合

支部紹介⑮ 南支部

ダンス カラオケ 写真 多彩にサークル活動 さわやか旅行や餅つき会 コロナ禍で影響受けた

下京 南を発展的分割

員(下京306人・南184人)をもって発展的分割が行われました。

多彩にサークル展開し

南支部はその後独自で機関紙を発行。定例の行事では「ダンス同好会」や「カラオケの集い」「習字の会」「写真同好会」などのサークル活動。年間行事の中では「さわやか旅行」「餅つき大会」、また地域で開催される「祭り」のイベントに参加するなど、多彩な活動の中でいつも仲間増やしは握って放さず、新型コロナウイルス感染症が始まる以前には組合員も300人に迫るまで増えました(最高時330人超)。

サークル活動再開へ

3年半に及ぶコロナ感染対策は、年金者組合独自の仲間増やしの課題に大きな影響をもたらしています。しかし振り返ってみればコロナで活動を自粛している間も急速に強まっている政治の右傾化は何としても許すことができません。この間、政治の転換を求める国民運動が全国的にも地方に於いても様々な形で実施されてきていますが、現在では現在では年金者組合がその中核を担うまでに成長してき

ました。いま大きく強い組織づくりが重要です。南支部はこの間増やしても減る傾向が続いてきましたが、月2回の役員会議では毎回必ず目標を決め、如何に仲間を増やすかを議論してきました。

今年になってからサークルのアンケート調査を行い、担当者を決め、いまサークルの再出発に意欲的です。最近では写真同好会が企画して「城南宮」と「植物園」の散策を実施して組合員を増やしました。

また、5月26日には3年振りにカラオケサークルが再出発、初めて参加された方もいて、11名が賑やかに楽しい時間を過ごしました。このたび新たに京都探訪サークルを発足させました。組合員が参加できる集いの場は大切です。何事も継続が大切。活気ある活動を期待されるようになってきました。

井上志朗副支部長 記



4月、久々に植物園へ散策

ワンショット

微笑ましいヒナへの餌やり 海岸のコアジサシ

チドリ目カモメ科



コアジサシが、浜辺のあちこちで抱卵している。巣というものを作るといより、砂浜を少し掘りそこに卵を産み付ける。抱卵している所では、野鳥の会の人だと思いが、ロープを張り巡らし人が入らないようにしている。卵を守るためだ。コアジサシは、日本では本州以南に群れて夏鳥として渡ってきて繁殖するが、繁殖地となる場所の減少に伴い数が減っている。

抱卵していたコアジサシの「巣穴」から、次々とヒナが顔

を出している。2~3日ぐらいは主に親のおなかの下にいて、時々親が餌の小魚を獲って運んでくる。その愛らしいヒナの表情を撮りたくてバーダーたちが集まる。思ったような構図にはならないが、微笑ましいヒナたちの仕草に時を忘れる。

その後は、草の影や「シェルパー」などに隠れたり、「散歩」したり歩き回っている。その仕草がまた微笑ましい。(浜)

京都年金者文芸



俳句

主はなく壁にひっそり夏帽子
夏帽子ベビーカーの児むずかりて
百合抱いて百合の顔して写真撮る

白木 礼子
倉田 圭子
木村喜代美

以上綴青年金者しんぶん

茶摘女の話はずめど摘みやまず
薫風に自転車母娘おしゃれへル

花野 玲子
今井 節子

以上宇治・久御山ねんきん

合鴨の子水田飛び込む水の音
一山を天に委ねて青夜なる
雨蛙ここに居るよとかくれんぼ
風立ちて大地に躍る新樹光

大野ひろみ
中田 範子
坂本二三恵
中野 忠樹

以上北桑田支部

木々に雨ひときは匂う栗の花
風青し聖堂にミサ始まりぬ
雨の道摘まみて戻すかたつむり

寿美恵
陽子
康弘

以上舞鶴年金者しんぶん

梅雨の月旅立つ友に別れつげ
散歩道夏鴨親子田の掃除
巢立ち燕親子の舞や広き空

大槻美千代
近藤 壽美
一井 義光

以上これからだ(福知山)

誕生日を選び面会桃の花
夏野菜植える親子の笑顔かな

松野 洋子
山村紀美子

以上ねんきん城陽

消えるもの年金かげろう夢いのち
どくだみの白き十字の花かわい
豆ごはん炊くたび母に近づきぬ

伊藤 哲英
三上 愛子
中西 實

以上ひがしやま(東山)

短夜や伏見港の水匂う
六月や霞かかりし愛宕山

広田浩三(下京)
山本拓治(西京)

短歌

一本松わが子も掛かる防腐処理

『原発』聞くたび空仰ぎ見ゆ
メーデーの非正規組合の報告は

平林 英男

涙まじりにて吾も泣きたり
桜舞う私の肩に手のひらに

下島 敬子

語る人なきひと日が暮れる

祐谷知須美

以上宇治・久御山ねんきん

竹落ち葉ひねもす庭に降る日なり
若葉の薫る風吹く日なり

大由里千代野

猪鹿の防御の檻に鍬を振り

山口 妙子

安全地帯と友は微笑む

山口 妙子

以上舞鶴年金者しんぶん

バスの中ぐずる幼な子困る母
影絵のワンワンしてみせる

田中 康晴

梅雨明けの残雪輝く岩尾根を

大橋 歳彦

夢でも良いから登りたい

大橋 歳彦

一つとり二つとり取りつくし

大橋 歳彦

千両の実無残幼の指に

山本三枝子

以上年輪西京

「あつ咲いているー」茂れる木々の間から
我が家のあじさい二つ三つ見ゆ所川和美(綴喜)

山本三枝子

コンクリのおおいかぶさる新名神

林良太郎(城陽)

いちじく畑長閑さいずこ

林良太郎(城陽)

以上年輪西京

林良太郎(城陽)



川柳

夢を見た佐藤錦の種飛ばし

陽子

さくらんぼ下の器用さ競い合う

美夜生

返却日あるから読める借りた本

白夜

以上年輪西京

60年人原発もガタがくる

千龍子(舞鶴)

軍拡で子育て支援頓挫かな

木村博義(綴喜)

忘年会かくし芸だと総理出る

出雲源人(綴喜)

趣味の紹介



舞鶴支部 竹内初美さん

中京支部 小鹿節子さん

沖縄新舞踊伝える 『沖縄舞踊』米寿 衣装も手作り

ご先祖は琉球王朝一族

奥原知代子さんは沖縄にルーツを持ち、そのルーツゆえに京都に住み琉球舞踊を生きがいとされている方です。

父上は沖縄に生まれ、就職のため名古屋市に転居されて家庭を持ちました。終戦から5年ほどたった頃、父上の長兄がブラジルに移民するので沖縄の先祖

代々のお墓を始末して骨分けすることにになりました。そして兄弟でご先祖の骨壺をあけたところ、ふたの裏に墨書で「琉球王朝の初代国王の三男から続けた踊り奉行」をしていたという記述があったのです。約500年前に埋葬されたご先祖が王朝の一員であり、奥原の家も王朝の末裔であると知って、みんなびっくりです。

古本屋でルーツ調べ

知代子さんも驚き、自分なりに家系や歴史を調べてみて、

当時は「刀で国を守るか、芸で国を守るか」を論争し、結局刀は捨てて「政治に芸を交える」とことを選んだほど、本当に芸能好きな一族だったのだと思えました。そして、それなら自らも芸を引き継いでいきたいと考えられたそうです。

また、父上はよく「琉球の歴史は京都から始まった」と話されてきました。「それは、江戸時代に書かれた本を読めば分かるから探してきて」と頼まれもしました。今のようにインターネットもない時代です。古本屋を相当回ってもなかなか見つけれず、「あった!」のは父上

が他界された後のことでした。その本は12世紀半ばの保元の乱が舞台、当時の天皇を支える弓の名手が京から琉球まで駆け巡る冒険活劇「弓張月」といい、その名手の子が琉球の初代王になったと書いてあります。それを読んだ知代子さんは、「起源が京都なら、京都で踊ることに意義がある」と転居を決意されました。40歳くらいのこと

きです。



京都に引っ越して来た知代子さんは東山区で沖縄料理店を開き、琉球舞踊の教室も作りました。大阪の先生に出稽古を頼み、教室は多いときで20人以上になったそうです。今は琉球舞踊をアレンジして沖縄新舞踊として踊っています。みんなで沖縄に行き、ご先祖が祀られている公園で舞踊を奉納できたこともいい思い出です。華やかな衣装は、最初は取り寄せしていましたが、今は手作りすることもあるそうです。

年は、みんなが米寿のお祝いをしてくれるというので日にちを決めたら、今年から能舞台を再開するという日と重なってしまい、とても残念がっておられました。

ご自分の家系や歴史については、いろいろな本を読んで自分の考えをお持ちです。その資料の一部を琉球大学に持っている、説明されたこともあるとのこと。大変な行動力だとびっくりしました。

(取材 矢吹美根子
西田美津子)

沖縄への思い強く

ところで知代子さんは、毎年5月の第一日曜日に東山区の新日吉(いまひえ) 神宮の能舞台で踊りを披露してきました。しかしコロナ禍で中止になってしまい、5月の予定から能舞台は消えていました。そして今

輝いて元気に (おくはら ちよこ) 奥原知代子 (東山支部 88歳)

お詫びと訂正
5月号掲載の「輝いて元気」欄でお名前を小谷勇治(おたにゆうじ)さんと誤って小谷雄二(こたにゆうじ)さんと記載しました。お詫びして訂正いたします。

